

京橋の印刷

7月15日1981・No.37

発行所
東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855
印刷所 八千代印刷株式会社
編集 田島弘



目次

△表紙▽ 長寿謝恩の会……………	1
巻頭一言……………石曾根支部長	1
長寿謝恩の会開催……………	2
漢字の字形の歴史の変遷について……………	4
ブームを追って「民謡」……………	12
△地区幹事さん紹介▽	
入船地区……………	13
△地区だより▽	
新川地区、定例会・講演会を開く……………	14
昭和56年度京青会第一回講演会……………	15
支部難易度組版研修会……………	15
支部の動き・編集後記……………	16

巻頭一言

全印工連と東京洋紙同業会の製紙カルテルに関する懇談会で、京橋支部発行の用紙情報提供を訴える文書が問題視され、特に内容についても「製紙業界の在庫調整が紙かくしや、価格のつり上げに至らぬよう監視体制を確立……」さらに「八月三十一日まで一切の値上げに応じないように」と言うなかで、激しい表現や期限について、何時、何処で、誰が決めたのか、そのうえ製紙業界との交渉がやりにくい、との指摘が常務理事・支部長合同会議でなされ、文書発行についても本部の許可を求められた。このような民主主義を踏みにじる組合運営が許されて良いのだろうか、かかる体質については重大な関心事あり、改善のために努力せねばならない。

長寿謝恩の会開催

六月四日(木)、京橋会館七階において、久しぶりに京橋支部「長寿謝恩の会」が開催されました。昨年はいろいろの都合で開催されませんでしたので、今年はどうも催しになるのかと皆様期待の内に、定刻三時半には、出席予定の方々は殆んど顔を揃えて開会を待ちました。

神林副支部長の司会により、まず田島副支部長の開会のことが述べられ、我々が今日あるのも支部長老の皆さんの温かいご指導によるものと、長寿者各位の業績を讃え、益々健康に留意せられることを切望した。



石曾根支部長御挨拶

石曾根支部長は挨拶に立ち、お祝いのことを述べ、「この長寿謝恩の会は、池宮支部長時代に創設されてから、ずっと引継がれてきた支部にとっては重大な行事であって、長寿者の方々の健勝をお祝

いすると共に、我々後輩の者に助言を戴くことができれば幸いである。また支部の歴史と伝統は多くの先輩達によって築かれたもので、それを守っていくことに對して私達執行部は責任を感じているが、全国一の規模を持つ京橋支部の今後についても、ご指導とご助言を切にお願いしたい」とのべ、また「高齢化社会に入った現在、七十歳ぐらいで長寿とは何事かとの意見もあるので、来年からは例えば名称も、先輩を囲む会」とでもした方が妥当ではなからうかと考えている」と一と諧謔をまじえて提案した。

続いて神林副支部長は、出席の長寿者二十五名を含む七十二名の方々のお名前を読み上げた。これを代表して本日出席の最長寿者である、(柳昇寿堂の瀬戸会長(支部顧問)へ石曾根支部長から記念品



謝辞をのべる瀬戸顧問



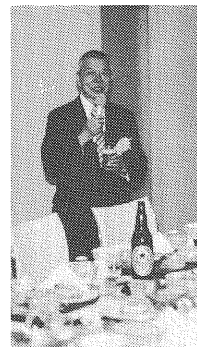
談樂の長寿者の皆さん

が贈られた。瀬戸顧問は「私は八十三歳になるが何かお役に立つことをしたいと考えている。年だからといって人に世話になるのはみっともないので、健康に留意して何時までも皆様と一緒にやってゆきたい。」と答辞を述べた。

記念撮影の後、来賓の祝辞に入り、まず東印工組久永理事長は、

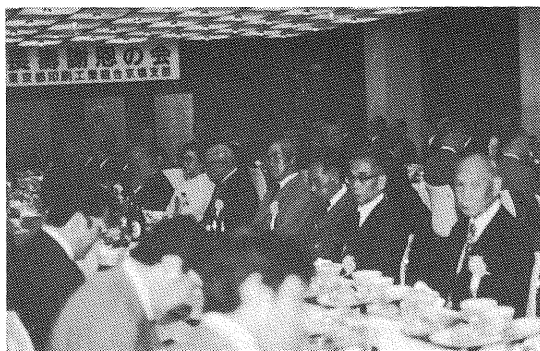
「出席者の方の中には私の先輩、友人の顔も見受けられて、おなじく長寿者の一人として懐かしさを覚える。この長寿謝恩の会は、池宮支部長時代から始まったと聞き、支部の方々の長寿者への思い遣りに敬意を表したい。また長寿の方々も気を若くもって今後も自社をはじめ、組合、地域のために活躍されんことを期待いたします。」と自ら手本を示された。

ついで友誼団体の東京製本工業組合京橋支部の牧野支部長によって祝辞が述べられた後、東印工組齊藤相談役の発声により乾杯の音頭がとられ祝宴に移った。長寿者と本部、支部役員が向い合う形に



乾杯、齊藤顧問

席がとられて、久しぶりの顔合わせに話はずむうちに、司会も水野副支部長にバトンタッチされて、地元新富町の芸妓により長寿を祝う、「寿鶴」「風折りえほし」等々、綺麗どころの舞にしばし堪



支部役員もご接待に大童



楽しくすすむ会食のとき



美声は白橋顧問

能した。長寿の方々も三味線にのって、久永理事長をはじめ、白橋顧問、池宮、久保田両元支部長等、次々と自慢のノドを披露し、時のたつのも忘れる程であったが、時間も経過したことであり、東印工組石沢相談役の音頭により万歳三唱のうちにめでたく謝恩の会を終了した。

長 寿 謝 恩 の 会 名 簿

(昭和五十六年六月四日 現在)

△京 橋 地 区▽

- 小宮山庄左衛門 小宮山印刷所
- 細田四郎 榎金陽社印刷所
- 堀沢健治 秀英堂紙工印刷所
- 西脇久雄 榎一成社
- 森市兵衛 榎モリイチ
- 尾島光子 三徳印刷所
- 宇留野市郎 文集社印刷所
- 羽生通成 榎羽生印刷所
- 鈴木教生 正栄堂印刷所
- 大沢忠義 大沢印刷所
- 小筆正次郎 小筆印刷所
- 中安義郎 榎中安印刷所
- 竹山みつ 榎竹山シーリング印刷所
- 加瀬文吉 文寿堂印刷所
- 佐藤富次郎 榎明興社印刷所
- 中村豊次 榎ミナト印刷所
- 徳田錦泉 錦光社印刷所
- 白橋龍夫 榎白橋印刷所
- 坂根謙吉 榎坂根商店
- 鎌田実鎌 田印印刷所
- 浅見米一 三雄舎印刷所

△銀 座 地 区▽

- 中川静子 中川印刷所
- 平野三郎 榎平野印刷所
- 名塩正平 榎京屋
- 小西大介 榎小西商店印刷所
- 永島冬二 冬水印刷所
- 瀬戸昇之助 榎昇寿堂
- 山崎秋四郎 東商印刷所
- 佐藤倫五 榎佐藤印刷所
- 加藤秀 東京開拓社
- 春原新松 榎すのほら印刷所
- 高橋ハナ山之内印刷所
- 堀江千治 秀江堂印刷所
- 黒川孫太郎 黒川印刷所
- 河合孝吉 榎欧印舎印刷所
- 市川仁作 榎三和印刷所
- 湯浅禎一郎 榎宏洋社
- 片山多平 榎片山印刷製本所
- 島田忠三 島田アサヒ印刷所
- 寺町佐六 興文堂印刷所
- 宮川竹蔵 榎宮川印刷所
- 深沢多助 榎新興社印刷所
- 池宮義久 三進印刷所
- 松川勝次郎 松川印刷所
- 西山達雄 西和印刷所
- 飯塚絵左衛門 榎光成社印刷所
- 飯塚松箔 松栄印刷所
- 吉富一臣 榎吉富印刷所
- 伊坂一夫 伊坂美術印刷所
- 石川忠由 榎一星社印刷所
- 石渡善作 精巧印刷所
- 板岡祐一 明治印刷所
- 大沼善策 榎大沼商店
- 小野ナツ 榎政弘社
- 河井嘉一 榎永代印刷所
- 朝川真三 榎朝川印刷所
- 須賀幸太郎 榎大成印刷社
- 荒井政吉 榎荒井美術
- 荒瀬徳次 朝日印刷所
- 吉野勝栄 榎吉野印刷所
- 丸野貞清 高千穂印刷所

△新 富 地 区▽

- 中村謹吾 日本精版印刷所
- 相川貞義 相川印刷所
- 高橋與作 正進社印刷所
- 黒川孝吉 榎欧印舎印刷所
- 市川仁作 榎三和印刷所
- 湯浅禎一郎 榎宏洋社
- 片山多平 榎片山印刷製本所
- 島田忠三 島田アサヒ印刷所
- 寺町佐六 興文堂印刷所
- 宮川竹蔵 榎宮川印刷所
- 深沢多助 榎新興社印刷所
- 池宮義久 三進印刷所
- 松川勝次郎 松川印刷所
- 西山達雄 西和印刷所
- 飯塚絵左衛門 榎光成社印刷所

△入 船 地 区▽

- 山内吉之丞 榎光雄社印刷所
- 中村賢逸郎 榎明秀印刷所
- 尾賀義彦 尾賀印刷所
- 中島安太郎 榎中島印刷所
- 須藤梅吉 榎岡田印刷所
- 武井東一郎 榎青雲舎
- 飯塚絵左衛門 榎光成社印刷所
- 荒川佐吉 誠文社印刷所

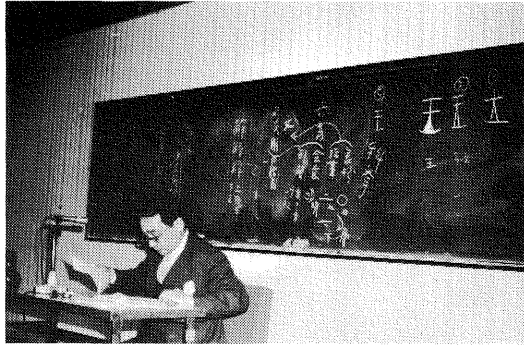
△月 島 地 区▽

- 飯塚絵左衛門 榎光成社印刷所
- 荒川佐吉 誠文社印刷所

京橋支部印刷人青年会総会記念講演

漢字の字体の 歴史的変遷について

東京大学教授 松 丸 道 雄



講師の松丸東大教授

現在という形でどうい問題が、実際に印刷をする時にあるかという事に関しては、私は利用者の立場から何がしか知っているという事にすぎません。私自身は、大変古い文字の事を専門としています。漢字が出来て以来の事をたどって考えてみると、しばしば今、使っ

ている漢字が正しいとか正しくないとかいう事が、いろんな形でいわれると思います。それでは漢字の正しい字体というのは何を意味するのか、何故正しかったり正しくなかったりするのかわからない事をテーマとして、考えてみたいと思います。というのは、結論的にいいますと、これがあるから正しい漢字だということ事はなかなかむずかしくて、言いにくいものなのです。しかしご存知の様に、今回また改定があり、当用漢字が十八字ふえ千九百四十五字になりました。一方、常用漢字表でもって一応、文字の字体について指定がしてあり、形が決まっています。これは昭和二十一年の内閣告示で決められた字体で、教こそふえたが字体は動かしていない。その字体は、戦後のどさくさ、きわめて雑な、全く考えられない様な雑な決め方で決めてしまい、今回もその字体を動かす事は出来なかつたわけです。ところが、それ以前の日本で使われていた漢字は、ああいうものではなく、今日正字とか旧字とかいういい

方で、依然として需要は途絶えていない。したがって印刷業界の方は、最低二通りのものを揃えておかななくてはいいという事情があると思います。写植関係でも、おかしな文字板で、活字の字体とは全く違ったもので、その辺に立ち入ろうとは思ってはいませんが、非常に問題があります。

それから少し目を広げて見ますと、台湾では戦前の中国の活字を使っており、日本の正字とは少し違っていています。大陸の方ではすっかり様が変わりしてしまい、したがって極端にいますと、日本で二種類、台湾で一種類、新大陸で一種類と、漢字というのは、ざっと四種類くらいあるという事で、そういう問題も今日ではかかえ込む事になってしまいました。

そういう事を念頭においた上で、漢字の字形がどの様に変遷してきたか、ご存知の事が多いでしょうが、たどってみようと思います。

漢字はいつ頃発生したのか、いつ頃出来たのかという事は、現在のところよくわかっていません。現在こういうものが史料として一番古いのだという事で、たどる事が出来るものは、紀元前十四世紀から十一世紀にかけて使われた、いわゆる甲骨文というものです。

次頁下欄に載せた表は三段に分けていますが、上段が中国の王朝名、中段が字体の名前、下段がその説明文が書いてあります。



印刷人も興味深い講演

殷代は三つの時期に分けられ、殷代の後期という時期に、甲骨文が使われていた事が確実になっています。今日十万点ぐらいの出土があり、そこに文字がたくさん彫り付けられていて、整理してみると、文字として三千字ぐらい出てきます。今日では、ほぼ解説する事が出来、文章的にもどうい事が書いてあるのかわかりませんが、ただ文字という点から見ると、ある文字がいろいろの形で書かれているという事があって、必ずしも形の上から見ると統一された文字が書かれていた訳ではないという事がわかります。(図3-1) から (図3-5) は甲骨文の一例です。

甲骨文は三百年ぐらい使われていまし



図 3—5



図 3—4



図 3—3



図 3—2



図 4—2



図 4—1 殷代後期金文



図 3—1 殷代後期甲骨



図 1 仰韶期 陝西西安半坡出土土器片刻符



図 2 殷代中期 江西吳城出土土器片刻符

たが、時期的に五つの時代に分ける事が出来、その変遷した後の典型的な例です。これらが漢字として考えうる最古のものとなるわけです。

数は多くありませんが、甲骨文とほと

んど平行して青銅器に鑄込まれている文字が、少数ですが出てきます。

(図4—1、4—2)がそうです。(図4—3)は今日の

表 1 漢字の字形の歴史の変遷

殷	西周	春秋	戰国	前漢	新漢	後漢	魏	南北朝	隋	唐	五代	宋	元	明	清												
甲骨文	金文	「古文」	籀文	篆文	草書	楷書の成立	楷書の発生	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)	楷書の統一 (正・俗の別)												
龜甲・牛骨に刻られた占卜用文字 (約三千字) B.C. 14C~11C	青銅器銘文 (約四千字) B.C. 12C~2C	中原の文字 (戦国期六国の金文)	楚系文字 (帛書・楚系金文)	秦系文字 (石鼓文・秦系金文) ……小篆の前駆	第一次文字統一 B.C. 221 > ……小篆	秦の刻石 (瑯琊臺刻石)	五経博士を置く B.C. 136	元鼎元年 B.C. 116	許慎『説文解字』九三三三三 永元十二年 (A.D. 100)	熹平石経、洛陽・大学 A.D. 175~183 隷書	正始石経、洛陽・大学 A.D. 240~248 古文・篆・隸の三体	汲冢より竹簡出土 (竹書紀年、穆天子伝) A.D. 279 碑別字、隆盛	第二次文字統一 > ……楷書	顔師古『字樣』	顔元孫『干禄字書』 正・通・俗	張參『五経文字』 正・譌	唐玄度『九経字樣』	開成石経、長安・大学 A.D. 833~837 楷書	『説文』の校訂、大徐本・小徐本の成立 木版印刷本	『明朝体』の成立	『字彙』	『正字通』	勅撰『康熙字典』 (約四万二千字) 1716年	王引之『(康熙字典) 字典考證』	王引之『重刊本・康熙字典』 (約三千字を訂誤) 1828年	英詁『字典校録』	古文字研究・甲骨金文研究の勃興

「王」という字ですが、甲骨文にも(図3-2)の中に出てきます。これは第二期で、その後第五期には、今の「王」とほとんど変わっていないです。わずか三百年の間にも、字形がどんどん変化していった事がわかります。この点からも、当時も字形が確立していたものでない事がわかります。

甲骨文は殷代で使われなくなり、青銅器銘文——俗に金文と称しているもの——はずっと使われていき、春秋戦国期、すなわち中国文化がある一つの繁栄期を迎えているのですが、ここでは、中国の領土的拡大という事もあって、金文を基礎とした文字が中国で広く使われる様になった。ある意味では、戦国期は分裂期でもありますが、地方地方によって非常に特色のある文字が作られる様になり、文字が各々の独立した国ごとに違っていてしまった。その間が数百年あります。

甲骨文も確立した字体ではないが、春秋戦国期の分裂期を経て、その後、秦始皇帝により全国統一された時には、文字はめちゃくちゃな状態になっていました。秦始皇帝は始めて中国を大きく統一した人ですが、いろいろの仕事を統一者としてやりました。例えば、全国共通に使用するお金の統一、度量衡の統一、道幅・車の幅の統一などを、次々とやっていきました。その中の重要な問題としてやったのが、文字の統一です。



図5 西周初期 金文



図7 春秋期 石鼓文

表1に第一次文字統一とあり、唐代に第二次文字統一と書いてありますが、私がこの様に考えるわけです。といいますが、中国の三千年もの長い歴史の中で、特に漢字の歴史の中で、国家が漢字の形を決めて正しい漢字だから使いなさいと言ったのは、秦始皇帝のやった統一と唐代にやった統一の二つしかないと思うからです。あえて数えたとすると、戦後に毛沢東政権が決めた新しい字があります



図6 西周後期 金文



図8 春秋後期 金文



図9 戦国中期 錯金金文

が、これは少し意味が違います。三千年の歴史の中で、この三回が統一事業としてなされたものです。

秦始皇帝が統一した文字は、俗にいう小篆というものです。図12の秦石刻というものがそうです。

甲骨文が紀元前千五百年位から始まっていると考えると、秦始皇帝が統一したのが、紀元前二百二十一年で、この間ざつと千二、三百年があります。その間、基本的には書体という意味からは、あまり変化がないといっているのではないかと思えます。簡単な話し、筆をまげて書く、今の楷書とは全然違う文字です。し



図10 戦国期 錯金金文

たがって、これを一括して私は古代文字と呼んでおきたいわけですが、秦始皇帝が決めたものが古代文字としての統一した唯一のものであったと同時に、古代文字の最後を飾るものであったといいたいと思えます。これを小篆といっていますが、それ以前のものを大篆といっています。二つをひっくるめて篆書といいますが、私のいい方では古代文字ないし古文といっていると思えます。

ところがこういうものを見て感じられると思えますが、実際として文字としての使用頻度が高くなると、不便で仕方がないわけですね。春秋戦国期には、各国の勢力がのび繁栄してくるにつれ、文字の使用度も加速的に高くなっていく、そういう状態の中で竹簡(図11-A、図11-E)といって、竹の札ないし木の札に墨で文字を書く事をやっていた。書物というのはこの様な形をとっていた。一尺ぐらいの長さのものを並べて、文字を書き二カ所をひもでつなぎ、ぐるぐるとまいておく。ひとまきが一巻。これが冊です。

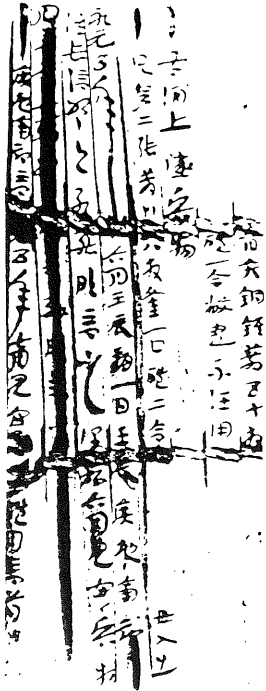


図11-7 後漢 木簡

種
五
父
希
巢
一

図11-6

六
兵
而
正
隼
一

図11-5 前漢 竹簡

不
正
半
身
上
一

図11-4 戦国 竹簡

不
正
半
身
上
一

図11-3 戦国 竹簡

不
正
半
身
上
一

図11-2 戦国 竹簡

不
正
半
身
上
一

図11-1 春秋後期 玉書

こういう竹簡が用いられると、こんな文字を書いていたのでは埒があかなくなつた。戦国期の竹簡は、それ以前にくらべると余り変わっていないと思われ、むしろ、前漢の竹簡(図11-5)では、だいたい今日の字に近付いています。つまり私は言いようがないので、くねくね曲つた字画の文字といいましたが、そういうものが多分に直線的になってくるという現象は、おわかりになると思います。要するに、私のいう、くねくねした文字が古代文字、古文で、だいたい戦国期の終り頃から、一ぺんになったわけではなく、古代文字がかなり本質的な意味で変化していきます。篆から、今日隷書とか草書とか読んでいる書体のものが少しずつ出来上ってくるという事になります。この時代には楷書まではいっていませんが、結局隷書とか草書とかいうものを通して、その後まもなく楷書が成立する。これが今日の印刷文字の原形です。

先程、秦始皇帝が文字を統一したと申しましたが、これは篆書に関する統一でこの頃からぼつと文字は変わり始めて隷書・草書が成立し、その中から楷書が発生してくるという事です。そして唐代(七世紀から九世紀。日本の奈良時代)になって楷書は確立してきます。篆書が成立して間もなく漢代に入りますが、実用文字としては隷書風草書風というものが出てきますが、一方学問の世界では、依然として篆書が残っています。その内、篆書についての知識がほろんでしまい、わからなくなってしまうのを再興して篆書をやってみたのが、許慎の『説文解字』という本です。この本の事はよく覚えておいてほしいです。というのは、どういう字画の文字が正しいのかを考える時に、『説文解字』にまでさかのぼって考えなくてはいけないという事情があります。『説文解字』は篆書の解説書に当たります。それ以前には、この様なものはなかったでしょうし、これ以後も、いくつか出来ましたが、非常に著名な物であったため、他の物はほろびてしまい、今日のところ『説文解字』だけが残っています。

漢字の字形が問題になった時には、常に『説文解字』にさかのぼり、どの様に説明しているかを基準に判定するという考え方があります。したがって楷書だけで問題が解決出来ない時には、さらにさかのぼり、祖先である篆書について考えてみる。その篆書のバイブルみたいな物が『説文解字』です。

写植のことなら何でも...

- 各種写真植字機
- 写真植字文字盤
- オペレーターの養成(写植スクール)
- 版下マンの養成(フィニッシュワークスクール)

株式会社 **モリサワ**

東京支店 東京都新宿区下宮比町15-5 〒162 ☎03-267-1231

ここに鮮やかな一枚

—カーボン紙—

レジシCCP

十條製紙

〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL. 東京(03)211-7311



図12 秦 石刻

われわれが文字と云っているのは、文と字で、二つは違います。「文」というのは漢字の構成で、象形、例えば日・月など見たままの形を表わしています。それから、指事というのがあります。これは抽象的な概念です。例えば上・下など。こういう事では作れる漢字が、ごく限られてしまうので、二つのものを合体させるやり方があります。これは会意というやり方で、例えば日と月を合わせて「明るい」という字にする。ところが、これでも足りないという事で、形声というやり方をします。形声というのは、意味を表わす字と音を表わす字を組み合わせて文字を作る。例えば「河」という字がありますが、カは音だけ、シは川の意味を表わします。それから「カ」という字は、

		四	辛工	与光
古文 從金	𣎵 從木	禮有 𣎵也 從木 四聲	平也 從 木 气聲	木柄也 從 木 午聲
	父	方	𣎵	内工
籀文 從四	承槃也 從 木 般聲	一 𣎵也 從 木 否聲	木參 交也 以 枝 𣎵 聲 讀若 駮	𣎵 非 斛也 從 木 既聲

図13 唐 写本説文木部の幕本

人が天秤棒をかついでいる形で、になうという意味。この音だけを借りてきて使う、になうという意味とは何の関係もありません。そんなやり方で文字を作っていきます。今ある漢字の九十パーセントは形声というやり方で出来ています。これは単純なユニットで、これは複合させたものです。前者を文といい、複合させて出来たものを字といいます。日本語では文字と云っていますが、中国人の考えでは文と字は違うわけです。文を説き字を分解する意味で『説文解字』という書名がついています。文字の起源を考えていこうとか、正しい字形を考えていこうとする時には、バイブルになるものです。その中には九千三百五十三字が入っていますが、その内の九十パーセントが形声である点に注意しておくとうるしいでし

よう。 こういうものが幸いにして今日まで書物の形に残っているわけですが、と同時に文字が当時としても乱れるものだから何とか正しい文字はこういうものだという事を、世に示さなくては行かないと考えた。当時は印刷技術があったわけではないので、正しい文字と考えたものを、石の碑に彫って人がみられる様に立てておく、そういう事が次々と何回も重ねて行われました。今日我々が、各々の時代に何を正しい文字と考えていたのかという事は、こうした石碑から伺うことが出来ます。特に文字を問題として、これが正しい文字だという意味で立てたものに石経というのがあります。経というのは経書で、儒教の聖典です。当時の学問の中心は儒教であり、そのテキストが最も

プロセスインキの最高峰

New Champlon

Super **Apex**

大日本インキ化学

山 桜 製 品

株式会社 **山 桜**

本社 東京都中央区築地 3-2-9
電話 542-8511 (大代)

工場 東京都昭島市大神町 1046 番地

支店 神田・中野・五反田・浅草・板橋・亀有
墨田・蒲田・横浜・千葉・大阪



図15 正始石経



図14 熹平石経

大切なものと考えられたのはいうまでもありません。

後漢の頃に、隸書に関しては熹平石経(熹平年間に立てられた石経という意味)というのがあり、これが一応隸書の標準的な書体であると、今日でも考えられて

います。それから、三体石経といって古い文字と篆書と隸書の三種の文字を並列して彫ったという正始石経(図15)といわれるものが、この時期にたてられています。今日全面的に残っているわけではないですが、こういう資料からどういうものかという見当がきます。

その後まもなく、隸書というのはいさづいも十分便利な書体ではないという事と、この頃から紙が使われる様

になった事とで、字體を変えていくようになりまし。隸書は主として竹の札、木の札に書いたので、肌が限定されていた事もありますが、紙はまだ高価なもので

はなかつた様です。徐々に使われる様になった事が楷書を発生させる原因となつたと思われま。しかし公認された文字ではなくて、魏、晉

南北朝の時期、別のいい方で、六朝期に自分勝手に楷書風に書くという事が、多く行われています。

この時代の楷書というのは、今日石碑に彫られて残っています。先に申しました石経は各々の王朝がたてたもので、きちんとした文字ですが、これらには楷書はなく全部隸書までです。ところが自分で立てたお墓に祖先の事を記した文字は隸書より楷書になっていきます。これらは自己流にやるので、好きほうだいにや

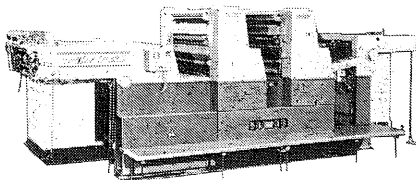
たため、いろんな書体が出てきています。今日、それらの楷書を読むには実に苦労させられます。我々はこういうものを碑別字といういい方でよんでいます。い方そのものは少しおかしいのですが、この当時楷書が発達し、以後確立し、王朝によって認められるわけで、形成期の楷書ともよぶべきものです。これは本

次に滅茶苦茶をさわめたものです。しかし次第に、楷書体の文字を使うのは便利だという事で、ついに正式の文字として取りあげざるを得なくなつた。これが唐代に於ける楷書の整理事業であると思つてよいと思います。

もう一つ文字を統一しなくてはならなかつた事情というのは、科挙制度が確立したことです。科挙制度というのは、政治をおこなうのに不可欠である官吏を厳格な試験でもって採用した制度のことです。ヨーロッパでは考えられない事です。今日の日本の官僚制度は、こ

新鋭機設置...プリント界をリードする技術!

●ミラーTP-38S(菊全2色刷両面兼用機)



既設機種/小森四六半載・エクセル1色機/菊全ニューコニー2色機

松川印刷株式会社

〒104 中央区湊1-12-5 ☎553-0831代

△トウのビジネス封筒

名刺・カード・はがき

営業品目

- 事務用和洋封筒
- 名刺用封筒
- 私製はがき
- 招待状付封筒
- ワード付封筒
- ROM付封筒
- DM用封筒

株式会社 △トウ エニパック

- 本社 東京都江東区永代1-2-1 電話(62)1141(代表)
- 配達センター 東京都江東区永代1-1-7 電話(64)3237(代表)
- 支店 城南(227)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851
- 栃木工場 栃木県下都賀郡野木町友沼 電話0285(5)2100(代表)



図17 唐 顔氏家廟之碑



図16 唐 御史台精舍碑

の科挙制度をうけている様なところがありません。官吏の登用試験というのは、随の少し前頃より行われる様になりました。その際の試験科目は儒教の教典であり、この頃より儒教の教典そのものが、楷書

で書かれる様になってきました。楷書としてはどの様な字体で書くのがよいかという事が、問題になり、試験の時にどれが正しい字なのかを確立していなくては、試験そのものが成り立たなくなりました。そ

れが最大の理由であったと思います。王朝の命を受けて、それ以前流行していた碑別字の整理作業が始まりました。そして何度かにわたって整理され、顔師古の「字樣」とか、顔師古の孫にあたる顔元

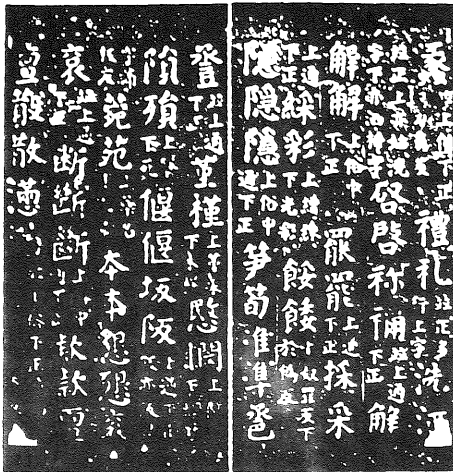


図18 唐 千祿字書

孫の「千祿字書」、張參の「五經文字」、唐玄度の「九經字樣」といった本が次々に作られました。(図18)に「千祿字書」をあげておきますが、

「千祿字書」は、張參の「五經文字」、唐玄度の「九經字樣」といった本が次々に作られました。(図18)に「千祿字書」をあげておきますが、

生産性の「拡大」に
「コニースーパーテン」がお応えします。

毎時1万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5色機

 小森印刷機械株式会社

本社 東京都墨田区吾妻橋3丁目1番1号 〒130 東京 (624)7161番(大代表)

の中では通字というのを別にもうけまして、正字と通字と俗字の三種類に分別しています。次の『五経文字』では正と譌正しい字と間違った字と区別して並べています。そしてその時に、何故正しい字とするのかという問題に対しては、『説文解字』を頼りに解決しています。隸書の書体でいくと楷書では、この様に書かなくてはいけないという主張がもりこまれました。この様な形で、唐代の楷書は整理されて、初めてここに楷書の統一という作業がなされたわけです。

その後、宋代になりますと印刷技術が進歩してきます。唐代には書物はほとんど写本という形で行われていましたが、宋代には木版印刷が非常に盛んになり、今日でも宋版と称せられる書物が残っていますが、これは木版技術の進歩と書物の需要が高まってきたからで、宋は文化的に非常にのびた時代です。木版印刷は版木に文字や絵を彫って紙をあて刷ったわけですが、その直後から活字が出てきます。まず元から明にかけて木活字が作られますが、実用としてはやりにくいものでした。インクが水性ですので木活字が水を吸い、ふくれあがってきたり、木目の問題もあって、木活字は使う上では困難をきわめました。それで一時期、陶活字というのがありましたが、間もなく金属活字になってきました。そうしますと、活字という形で使用していくと、デザイン的に確立していかない

と交せてまた拾ってやりかえた時に、ちぐはぐでは困るという事で、必要あってこの時期に印刷のための特殊な字体が工夫される様になりました。それが今日、我々が使うところの明朝体であり、明朝活字というのは、この時期に印刷上の必要から出来あがってきたものです。

ところが、明朝体としてどの様な字体が正當なものとして考えなくてはいけないか、という問題が又生じてきたわけです。つまり第二次文字統一で、楷書の正体が決まったと、先に申しましたが、それは筆で書いた時の正体の意味で、明朝体になって、これが正しいとして作られたのが、清朝になって康熙帝の命によって出来た『康熙字典』です。ここには四万二千字の文字がもりこまれています。これはあくまで、唐代に作られた字典を根拠として、それに増補して出来たものです。唐代の字典の根拠としたものは、『説文解字』であり、字形は各々違っていますが、正統な文字という考え方はこのような形で受けつがれていきました。こういう事で、文字の形というものを発生してきた順序に従って、次々と字形としては変わらざるを得なかったけれど、篆書から草書、隸書、楷書と形を変えざるを得ない様な宿命をもったにもかかわらず、その間の関係をずっと保ちながら矛盾をおこさない様にと、字形を考え続けてきた歴史があったわけですから。

そういう事をふまえていたはずであったのに、日本では戦後、昭和二十一年の内閣告示で全くそういう点を無視して字形をきめてしまった事は、ある意味で文化的にいえば、実際に使っているという立場で便利という事は別問題として、文化としての文字のつながりからいうと、はっきり断ちきってしまったという事であつたろうと思います。それを我々ほどの様に受けとめるべきかというところに、ひとつの問題があると思います。

筆者紹介 筆者は一九三四年東京生れ、一九五八年東京大学文学部東洋史学科卒、以後東京大学東洋文化研究所助手、講師、助教授を経て一九八〇年教授となり現在に至る。中国古代史殊に甲骨・金文学・考古学・文字学を専攻。著書には「甲骨文字」「新編金石学録」「西周青銅器とその国家」などがある。

本稿は、昭和五十六年四月十八日(午後六時より、東京都勤労福祉会館において開催された第二回京青会定時総会に引続き、記念講演会として企画されたもので、総会終了後六時半より約一時間半に亘り講演され京青会の若い印刷人に多くの感銘を与えた。なお講演後の活発な質疑応答は割愛した。(編集部)

対話へのかけ橋

1枚の封筒にも
大きな使命が
かせられています。

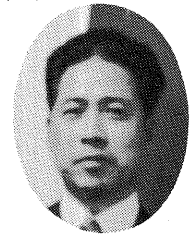


山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151代
工場 〒132 東京都江戸川区西瑞江4-21 電話(652)7721代

ブームを追って 民謡

(1)



大東印刷工業株式会社

岡 野 滝 雄

る。これは過去のように一時期の流行で
終ってしまう命運なのであるうか。

さて、そもそも民謡とは何か。民謡と
はどんな形かなども一応定義してから、
誰しもが再三口ずさんだことのある、今
では一大流行とまでにたちいたった民謡
をここで読者といっしょに考えてみよう。

まず私の手元に「広辞苑」があるので
その語意から入ってゆくことにしよう。

「民謡とは」郷土の庶民の間に自然に
発生し、その生活感情、また民族性など
を素朴に反映した歌謡。たとえば田植歌
・草取歌・米搗歌・桑摘歌・茶摘歌・馬

子歌・舟歌などのように、ある種の労働
に統一とリズムとを与える労働歌、婚礼
歌・新築歌・祭礼歌のような祝賀歌、舞
踊に付随する踊歌などがこれに属する。

広義には地方色を帯びた新作歌謡(新民
謡)を含めていうとある。

民謡を聴くに付け、また実際に唄うに
つけずぐ分かるのは、その音律の易しさ
にある。皆さんのあの経験、たとえばお

風呂で気分よく口をついて出るようなと
きの佐渡おけき、斎太郎節、黒田節、串
本節、花笠音頭など、どれをとりあげて
もむずかしいものはなく、平易で簡明で
ある。リズムもメロディも易しくて誰にで
も覚え易くできている。このことが実は
民謡の性格の第一条件となっていること
に気づく。歌詞もまた平明である。一節
を口ずさみながらも次の歌詞がだいたい
想像できるようなものばかりである。ま
た歌詞の大多数のものが短く、くりかえ
しも多く、調子よい囃子が適宜に入り、し
たがって覚えやすいものとなっている。

他の歌曲に比べて誰もが自然に、抵抗
なく唄えるばかりでなく、これを無伴奏
で自由闊達に唄えることが民謡の第二の
性格である。伴奏楽器としてはわずかに
三味線、尺八、太鼓が代表するようにご
く限られた少数のもので足りる。手拍子
だけでも唄える歌曲は他にあまり類例が
ない。このことは民謡の発生が実によく
自然に、心情の発露として人々の口から
ついて出ていることの証明である。

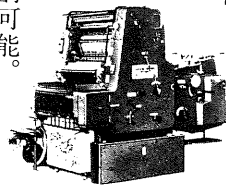
また民謡には故郷があるということが
第三の性格である。歌詞それ自身の中に、
それぞれがその風土・習慣・行事などが
織りこまれていいるから、どの地方の何を
唄ったものかがすぐに分かるはずである。
誰しも己が故郷は美しく、いとおしきも
のであろう。

ここで昔から東北地方に行われていた
婚礼の姿を紹介して、その婚礼の形の中

ハイデル情報

ハイデル単色Mオフセット機
菊半裁判 四八〇×六五〇%
最高速度八千

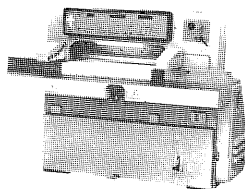
毎時。ナン
バリング、
刷り込み、
ミシン目
入れ、二分割可能。



ポラー情報

ポラー九二EMC断裁機。

最大断裁幅九二 cm
マイクロー
ンピュータ
搭載の新高
速断裁機。
積紙高土 cm
重量二六〇 kg



印刷機械貿易株式会社

香里本社 大阪府寝屋川市豊里町一四
電話〇七三〇三三三〇四四一
東京事業部 東京都品川区南大井三二二四
電話〇三三七六二一四一四一

京 橋 の 印 刷

に民謡がどのようにかかわって来ていたのかを考えてみたい。

「むかされやー」そのすきとおった声が田畑や山あいの広がり空間にひびきわたる。むかされとは嫁入り祝言の意で婚礼のことである。一人の男の美声がやがてこれから行われんとしている祝言のシユプレヒコールなのである。この前ぶれがおわると祝言の盛装の新婦は嫁ぎ先である新郎の家まで、新婦の側の媒酌人に先導されて畑の中を静かに、しかも晴れやかに進んで行くのである。新婦が遠ければ馬で、近ければ徒歩で行く。この嫁入り道中のなかには長持や挟箱をかつぐ人がおり、新婦の親たち、親類縁者の顔、かお、顔がその長持などが代表するようにならぬに晴れがましく交錯していく。

長持とは寝具や衣装の筆筒のことで挟箱には新婦の大切にしている品々が入っている。だから行列の長さも長持などの数とが新婦の富裕の度合いを示すことにもなる。この行列の途中、長持をかつぐ人たちによって長持唄が唄われる。めでたい唄である。また道中行列となる前に新婦の家では、めでたさの中にも哀愁のただよう御立酒が唄われる。長年育てあげてきたわが娘の幸せとこの日この時の親子の惜別を唄いあげた美しい旋律をもったものである。御立ちとは来客の帰るごとの尊敬語である。

新郎・新婦の固めの盃があつて披露宴に入り最初に唄われるものが長唄の鶴亀である。これはもと能の一つで十世杵屋

六左衛門作の長唄として有名となつてゐる。あの「むかされやー」と掛声をかけた美声の持主がこの唄を披露する。これを皮きりに祝事に唄われる民謡のかずかずがせきを切つたかのように唄われてゆく。まさに民謡の独壇場である。長持唄、さんさ時雨、木遣唄などがその代表格でもある。特にさんさ時雨は婚礼の代表的民謡で祝儀唄として手拍子で唄われる。古く江戸時代初期のころから仙台地方の「さんさ時雨か萱野の雨か音もせで来て濡れかかる」を元唄にしており、三味線ではやし、踊りが加わると最高となる。木遣うたの木遣とは木材を運ぶときに音頭と掛声を掛けて送り運ぶことをいい、木遣節、木遣おんなどがあり、歌舞伎にとり入れられて木遣崩(くずし)となつた。新築のときに棟りょうの日やけした声いなるなど耳にするとき、一種の清涼感があたりに漂う。長持の行列は現在ではその姿を消したが、民謡は今なお盛衰して残る。このように祝儀の席で唄われるほんのわずかな例でも分かるように、昔から民謡がどんなにわれわれの実生活の中に溶けこんだものかが改めて分かるような気がする。東北の秋田・山形・岩手地方の寒村などでは、この婚礼の代表的しきたりが一部変形して現在もなお残されていると聴く。年末の紅白歌合戦には初めて民謡が登場する。聴くのがまた楽しみである。NHKが全国民謡祭を始めて四年となる。

めめて四年となる。

(続く)

入船地区幹事さん紹介

大沢 将 宏さん



大沢印刷株式会社取締役。生年/S18・9。職歴/S42年立教大学経済学部卒業、吉川紙商事で一年半修業後、同社に入社現在に至る。出身/東京都蒲田。趣味/野球、仕事。寸評/営業第一線で活躍
オフ化する
業界の中で
活版を守る
明朗かつ誠
実な若手の
ホープ。

小島 弘 三さん



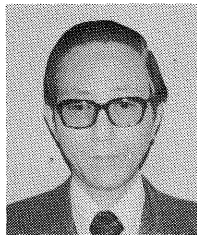
有限会社新明印刷所代表取締役。生年/S2・9。出身/東京都。趣味/ゴルフ、音楽。寸評/温厚で堅実なお人柄。地区幹事二回目。今でも一日一回顔を
出さぬと叱られるお得意様がいっぱい
あるとのこ
と。二代目
に自慢して
渡せる事業
にしたいと
頑張ってお
られます。

松 橋 強さん



株式会社王友社代表取締役。生年/S5・10。職歴/S27年明治大学商学部卒業後、丸大洋紙店東京支店に入社。S35年に退社し、父松橋可吉氏が大正11年に創業した同社を継承、現在に至る。出身/東京都。趣味/ゴルフ、テニス。寸評/修業を洋紙店でされたので紙について
て博学、気
さくな話を
聞かせても
らえる仲々
の人物。

和 田 博 邦さん



有限会社和田美術印刷所代表取締役。生年/S3・8。職歴/S25年日本大学経済学部卒業後、同社に入社。S56年1月、先代和田康次郎氏より事業を継承、今日に至る。出身/東京都。趣味/つり、謡曲。寸評/社長になられて何かとお
忙しい中、
地区の仕事
をやってく
ださる。几
帳面で物静
かなお人柄

地区だより

定例会・

講演会を開く

〈新川地区〉

五月二十二日(金)新川地区では中央区立新川区民館において、午後五時より地区組合員四十数名が集まり、元衆議院議員浜田尚友先生をお招きし(高千穂印刷小山社長のご紹介)、薩摩が生んだ英雄西郷隆盛の幕末から明治維新にかけて、そして明治の新政府の設立に尽された彼の一生を通して、その人となりと人生観を先生の多年の研究と資料に基づいてご講演をお願いしました。

とても七十二歳の高齢とは思えぬお元気で、西郷さんの国を愛し、国を愛い友を信じ、友を愛し、幕末の逆境時代、同志であり親友の僧月照と小舟から錦江湾に身を投じる話しの件りに至っては人間西郷の面目を鮮明に映し出し胸を打たれた。

明治新政府設立についても、明治天皇の御意向を汲み、一党一派に偏することなく、広く日本各地から有能な人材の発掘と登用に尽し、新日本の黎明期の基礎

を固めた。

西郷さんの生きた時代も、現代の物質文明万能の時代も、彼の生きざまは現代のわれわれに欠けている精神面で補なえる事が沢山あるのだ、と云うことが聴講者の心に強く打つものがあり非常に勉強になりました。

時間がずれこみ、興奮さめやらぬまま引続き会場を変えて七時から定例会に移りました。

共盛堂印刷中村幹事さんの司会により昌平堂印刷伊森区長さんの挨拶から初まり、

「皆様の御協力のお蔭ではや一年が経過致しました。五十五年度は不馴れと準備不足から、行事らしい行事も出来ず申訳ありません。五十六年度は、講演会、研究会等を盛り込み研鑽と親睦の年にしたい。」

と決意の程を披瀝した。

来賓として御出席頂いた京橋支部長石曾根社長(八千代印刷)から挨拶があり「二日程前に製紙業界から申請の不況カルテルを、公正取引委員会が認可されたことは、組合本部並び支部としても、もしそれが直ちに値上げに結びつくことが必至と考えられるので、各社にもし卸商からの要請があっても、反対の態度をとってほしい。構造不況が招いた問題をカルテルと値上げのみで解決出来るとは思えない。お互に情報交換して値上げ阻止のため頑張ってもらいたい。」

と挨拶がありました。

伊坂印刷伊坂顧問さんより

「最近組合員の組合に対する理解とか協力度が高まりつつあるが、昔の事を思うとき昔日の感がある。組合にとって非常に喜ばしい限りです。」と挨拶がありました。

秀文社佐野幹事さんより五十五年度の行事報告と五十六年度行事予定が発表され、共立印刷船尾幹事さんより五十五年度会計報告、五十六年度予算の提案がなされ了解された。

引続き懇親会に入り、大竹印刷大竹社長からヨーロッパ(西ドイツ)の印刷ユーザーの話として

「フォーム印刷も近年は大量受注から少量に移行しつつある。傾向として日本のフォーム関係印刷機が小廻りが効き使いやすい。日本の機械を注目している。」

日本もオフコンの普及がすすみ印刷受注量がだんだん小型化と細分化する傾向にあるので、これからの帳票類はきびしい立場におかれると思う。お互いに競合度合が激しくなるのではないかと。とこれから業界見直しの挨拶があった。

なごやかな懇親会のうち、やがて八時半となり伊坂印刷岡谷幹事さんから、「今年の新友会(新川旅行会の略)旅行は十一月一〜三日の予定で沖繩に決定しました。」

と報告があり、岡谷さんのお開きの音頭により閉会となった。

雑誌合本 文献製本

毎週木曜日貴地区を巡回致します

東京都製本工業組合・図書館製本部会員

(有)染野製本所

市川市八幡4-18-27
Tel-0473(34)3824

日本を代表するインキ

TOYO KING ULTRA70



東洋インキ

青年会の活動

京青会第一回

講演会

永和堂株式会社

神田 範世

梅雨空のはっきりしない日が続いてます。そのあいまをぬって六月二十二日(月)私達、京青会の勉強会が、千葉大学画像工学科講師・国司龍郎先生の出席を戴いて、印刷会館三階の京橋支部にて開かれました。出席人数は二十六名で、皆様御多忙とみえて始まる時間が多少遅れたことは残念でした。

始めに、講師に対しての私達の素朴な質問は、何故 国立の千葉大学に印刷学科があるかということについてでした。

先生は印刷が常々他分野の技術をとり入れつつ、古代から現代に発展してきた過程と併せて、国が紙幣、証券、印紙等を自国で製造するのに絶対的必要性から日本であれば、ヨーロッパの輸入の産物であると説明されました。そして現状の印刷については、工業分類での生産量が上位にあり、印刷から他産業へ印刷の技術が逆利用され(例えばテレビのシャドーマスク)ていることを話され、驚ろ

かされました。

印刷とはプリンティング(印刷する)とグラフィックアーツとを兼ね備え、また私達が広範な知識をもち、総合工学の技術(エレクトロニクス等)を利用して、いかに良いものを、またいかに同等のものとして見せるかを、紙の上に演出させてえがくことだと強調され、十九世紀後半からアートの思想が活版の造本美学に残っていると話されました。またオフセットのカラー印刷においては、そのものをみる人間の心理的なものと目の順応がかなりの要因となっていることを話されました。

講演が一段落したところで食事しながら質疑応答が行なわれ、松川さんから印刷物がどの程度の誤差なら相手に対して許されるか、という質問がありました。

これは現状の印刷業にたずさわる私達にとって、毎日でも起りうる大事な問題です。これに対して先生は、現在の工業において、印刷業のみ誤差の許容量のはっきりしていない工業は無いと言ひ、これはお互い印刷業者どうしがどんどん研究し、ユーザーに提示していかなければいけない——といわれたことは、私達も同感に思われました。

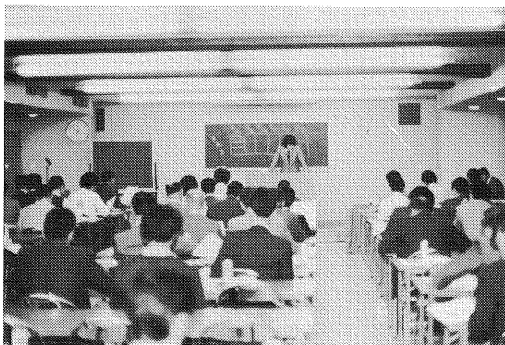
また印刷についての研究は、学問の上よりも実際の現場の方が進んでいるのが現状であるということでした。今後いろいろなと諸問題について意見を出し合い前進したいと思ひます。

最後に先生は、印刷業の今後の将来性について、現在、京青会々員の一若若い方々の生きている間ぐらひ迄はなくなるのではないであろうが、ただし量的減少は避けられないだろう——という言葉が印象的でした。

難易度組版研修会

五月二十一日(内午後六時より)日本印刷会館七階講堂に於て、日本橋支部、京橋支部共催により、事務用印刷物積算のための「組見本による難易度判定の手引」の説明会が開催されました。

まず事務用印刷委員の榎法文社浅野社長司会により、石曾根京橋支部長の開



功力晃氏による解説

紙の心をお届けする

HAGA

HAGA PAPER CO., LTD.

株式会社 芳賀洋紙店

本社 / 東京都中央区新川1-25-7
〒104 Tel. 03 (552) 9251 (大代)

杉並・仙台・高崎・名古屋・大阪・福岡

刺きド筒
名はガ一
力封
カレンダー

業界のトップメーカーで
全国で一番よく使われている!

TRADE (HT) MARK

ハート株式会社

- 東京東支店 135 東京都江東区冬木15番10号
電話(03) 641-1153
- 東京西支店 166 東京都杉並区高円寺南2丁目37番4号
電話(03)316-2151代表・4番
- 東京南支店 140 東京都品川区東品川3丁目26番4号
電話(03)450-1911代表・4番
- 東京北支店 112 東京都文京区水道2丁目8番6号
電話(03)941-3141代表・6番

会の挨拶があり、ついで多羅尾事務用印刷委員長の「事務用印刷の現状と未来」について講演があった。

引続いて、経済調査会の功力晃氏により難易度判定の手引による『組見本』の解説と説明が行なわれました。

当日は日本橋支部から二十五名、京橋支部から四十名の事業主や、営業担当者が出席して熱心に聴講したが、活発な質



熱心に聴講する皆さん

問や、意見交換が行なわれて、大変有益な研修会となりました。

なお、この「手引書」は評判がよく、一般向けに経済調査会から発売されたものは売切れになっており、東印工組で別注して作製したものはまだ在庫がありますので、ご希望の方は京橋支部事務局へお申込みください。一冊一〇〇〇円です。

支部の動き

6月4日 長寿謝恩の会開催、於京橋会館七階大広間、長寿者25名、来賓9名、部長・監査・地区長15名、報道関係4名、合計53名出席して祝賀、記念撮影を行なう。(別掲)

6月10日 部長会監査・地区長会開催、於支部会議室、印刷用紙値上げ問題の対処について、至急に実態調査をして製紙業界と折衝してもらうことを決める。

6月12日 日本橋支部、京橋支部共催のファストプリンティングを推進する講習会開催。ワードプロセッサ等の機器の実演も実施。於日本印刷会館七階講堂、日本橋支部20名、京橋支部87名出席。

6月12日 東京都火災共済協同組合代理所全体会議開催。於熱海・ニューフジャホテル、岩本書記出席。

6月13日 入船地区総会、於仙樂園、当日は石曾根支部長も出席し、地区組合員の皆様に、平素の組合行政に対するご協力に感謝を表明するとともに、本部行政の動きを説明した。また厚生委員会による「火災共済」の加入推進の重点支部とされておられ、火災共済組合の職員により、その有利性について説明が行なわれた。

6月16日 82ドルツバ展、日本橋支部、

京橋支部合同見学旅行結団式開催、於東京シティーエアターミナルビル日程説明を行なう、出席者約30名。

6月21日 中央区工業団体連合会主催一泊研修旅行開催、於長野県諏訪市、下諏訪温泉、山王閣。京橋支部より石曾根支部長をはじめ57名が参加、諏訪市の精密工業について講演を聞く。翌日、サントリー白洲工場を見学、次いで石和市のモンデ酒造(株)イン工場等を見学した。

慶 事

5月29日 八丁堀地区、(株)三田村印刷所社長二女、春子さんがご結婚されました。おめでとうございます。

弔 事

6月15日 新川地区組合員、高千穂印刷(株)相談役前会長、丸野貞清殿が御逝去されました。行年七十九歳。

6月18日 湊地区組合員、相互印刷(株)社長、斉藤徳雄殿が御逝去されました。行年六十八歳。

6月23日 新川地区組合員、永井印刷(株)社長御母堂、永井ふく様が御逝去されました。行年八十五歳。

6月24日 入船地区組合員、中信社中島印刷(株)社長、中島安太郎殿が御逝去されました。行年七十七歳。

以上4名の方々の御冥福を祈り心から哀悼の意を表します。

編 集 後 記

▼関東地方は7月4日頃から梅雨あけを思わせる暑さが続き、それまでの連日の小雨模様の梅雨寒むの低温が信じられない。ソ連のモスクワでも今年六月中旬から数週間に亘って三十二、三度という異常な酷暑が続き病人が続出、まだまだ気温は上るといふ噂さ、モスクワ熱帯化説を否定するのに当局は大わらわであると新聞は報じている。昨年の日本の冷夏といい、世界の気候の不順は何か異様なものを感じさせる。各国の乱開発による森林地帯の減少の影響が現れてきたという植物の生態分布の変化によるものとの説がある。この観点からすれば世界経済の低成長による住宅建設の減少や紙製品消費の減少という事は、木材の乱伐を防ぎ自然環境の破壊を防ぐ上で望ましい事後世のためにも必要である。製紙メーカーの生産調整も大乗の見地からは誠に結構なことであるが、低成長による需要の減少のための経営悪化防止策というのでは残念である。元来企業には好、不況の波があるのは当然であり、それが不況になつたから値を上げるとなれば、その結果は又需要減につながる。それは米価、国鉄運賃の例をみるまでもない。無理な値上げは後に尾をひく。経営の要諦はバランス感覚である。(H・I)